

◆◆◆◆◆トピックス（上都賀地方のこの一年）◆◆◆◆◆

【気象変動に対応した高冷地ほうれんそう産地の支援】

高冷地ほうれんそうは日光市を代表する園芸品目ですが、近年の気候変動による猛暑の影響を大きく受け、収量や品質の維持が困難な状況が生じています。

所内、関係機関で連携し、国庫補助事業の活用による遮熱対策資材の導入支援とともに、遮熱資材導入効果の検証、品種比較試験による耐病性の検討等、栽培技術高度化を支援しました。

令和7年度も引き続き事業を活用し、さらなる夏期の収量及び品質の向上、販売額の増加につながるよう支援していきます。



遮熱有ハウス



実証展示ほ現地検討会

【ハウス遮熱塗布剤の導入推進に向けた現地検討】

近年の夏場の高温は、花き生産において、生理障害や奇形花の発生、病虫害の増加による品質・収量の低下を引き起こし、問題となっています。

ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業を活用し、スプレーマムにおいて遮熱資材の効果検証を行いました。また、鉢物部会においては、導入生産者のほ場で現地検討会・学習会を開催し、高温対策について活発な意見交換が行われました。

今後は、費用対効果の検証も行いつつ、導入効果の高い高温対策技術について普及を図っていきます。



塗布ハウス



現地検討会

【いちご新規就農者の育成】

鹿沼市いちご新規就農者研修制度では、研修農場である出会いの森いちご園と農協、行政が一体となって新規就農者を支援しています。上都賀農業振興事務所では、農業の基礎的知識を学べる講座「上都賀地方フレッシュファーマーアカデミー」のほか、研修受講生を対象にいちご栽培の基礎を学ぶ講習会を開催しました。研修生6名が年間6回の講習を受講し、いちごの生理生態や時期毎の栽培管理、気を付けるべきポイントについて学びました。研修生からは、病害虫対策や収量をアップさせるための管理など、積極的な質問が出されました。研修生は2年間の研修を経たのち、新規就農者として独立します。



いちご先進経営体の視察



いちご栽培の基礎を学ぶ講習会

【いも3兄弟の推進】

令和6(2024)年度から、従来のさといもプロジェクトにさつまいもと加工用馬鈴薯を加え、「いも3兄弟プロジェクト」を展開し、所内各部が連携して支援を行っています。

さといもについては、湛水栽培見学会やさといも推進セミナーを開催した結果、鹿沼では面積が64a 増え、815a となりました。さつまいもについては、日光で新規栽培者が3名確保され、面積は29a 増え95a となり、新規栽培者を中心に毎月巡回する等重点支援を行いました。加工用馬鈴薯については、輪作作物等の検討と併せて補助事業を活用して面積拡大を推進し、550a 増え1,100a となりました。

今後も引き続き、ほ場整備計画地区及び実施地区等を中心に、いも類の作付を推進していきます。



さといもセミナー



さつまいも目揃会

【高温対策技術と組み合わせた「とちぎの星」の作付拡大】

日光市の担い手ネットワーク組織である「米米くらぶ」では、近年の高温被害（白未熟・カメムシ吸汁等）対策として、高温耐性品種「とちぎの星」の導入及びドローンによる2回の殺虫剤散布を組み合わせた取組を行いました。併せて土壌可給態窒素の簡易測定結果に基づき施肥量を削減した試験の成果を踏まえて「上都賀版とちぎの星栽培マニュアル」を作成し、関係者で情報共有することができました。次年度は、構成員全員が「とちぎの星」の作付面積を更に拡大する予定です。



米米くらぶによるマニュアル検討風景



上都賀版「とちぎの星」栽培マニュアル

【日光産米のブランド化】

日光市では、特色ある米生産の取組が行われています。

日光産コシヒカリ「しゃりまんてん」は9月下旬から東武鉄道の特急スペーシアを活用し、都内ホテルのレストランで継続的な利用が始まりました。

特別栽培米は県内スーパー等の高価格商品として販売されるとともに、地元直売向け商品も過去最高の販売量・売上高を記録しています。

3年前から「きぬはなもち」が丸彦製菓と契約栽培されるようになり、6年産では生産者 16 名、作付面積が 34ha と毎年順調に拡大しています。



日光特別栽培米研究会現地検討会



加工用「きぬはなもち」現地検討会

【WCS 水稻直播の拡大】

稲 WCS の生産・利用拡大を図るため、直播技術を取り入れ育苗の省力化、低コスト化に取り組みました。

大室 WCS 部会において、乾田直播及び無コーティング種子代掻き同時播種に取り組んだ結果、直播栽培の収量は、移植栽培の9割を確保することができ、水利の良いほ場では省力化効果が高いことを実証することが出来ました。

直播は、稲 WCS 生産の省力化に有効な技術であることから、規模拡大を図ろうとするコントラクター等に導入を推進していきます。



乾田直播作業



稲 WCS 収穫作業

【畦畔管理技術の利用拡大】

農地の担い手への集積集約が進み畦畔管理作業の増加が課題となっています。そこで、畦畔管理体制の事例調査を行い、これまでにスパイダーモア、ウイングモア、刈払機、ブームモア等の農業機械を活用している大規模経営体、担い手で草刈隊を結成した優良事例がありました。

令和6年度には、鹿沼市で新組織が誕生し、上都賀地域で新たにラジコン草刈り機が導入されました。新組織では、畦畔管理の作業受委託も行う予定です。受委託のルール作成、委託者に除草場所の面積や障害の有無等、条件を様式に記入してもらい、見積書等を作成し、双方が納得した作業料金を提示して契約後、受託作業を実施することとしています。今後は本調査結果を基に事例集を作成し、関係機関及び生産者に情報提供することで、管内の畦畔管理体制の導入支援を行っていきます。



ブームモア



ラジコン草刈り機

【千渡地区において工事に着手】

千渡地区（鹿沼市）は、58.7haの区画整理と一級河川武子川の用地の創設を行うとして、令和4（2022）年度に県営農地整備事業として事業採択されました。

事業区域を決める地区界確定業務や換地計画原案の承認を得て、令和6（2024）年度からいよいよ工事へと着手し、13ha程の面整備を実施しました。

令和11年度事業完了を目指すとともに、目標年次（事業開始10年後）までに担い手による農地集積率80%の達成に向け支援するとともに、スマート農業技術の導入や水田を活用した露地野菜などの園芸作物の生産拡大を推進していきます。



圃場整備工事着手前



圃場整備工事完了後

【荊沢地区において営農構想の検討】

ほ場整備の事業化に向け検討を進めている日光市荊沢地区において、営農検討部会を開催し担い手を中心に作付計画を検討しています。

令和6（2024）年度は、アンケート調査や地域の話合いを行うとともに、地域の実情を踏まえ、先進地を視察し、さといもやさつまいもの導入に向けた営農構想づくりを支援しました。

今後とも、地域に根ざした営農構想づくりを促進させ、新規ほ場整備地区を推進していきます。



営農検討部会の様子



先進地視察研修の様子

【引田地区において農地整備が完了】

鹿沼市引田地区において平成 30(2018)年度に着手した基盤整備事業が完了しました。

令和 6(2024)年度に権利者会議を開催し換地計画が承認され、整備された新しい圃場が関係権利者へと引き渡されました。

基盤整備の完了に伴い、現在 90%の農地の集積が図られました。今後は、集積され規模拡大が図られた農地でスマート農業技術の普及、高収益作物の導入等を支援することで、地域の持続的な発展が期待されます。



権利者会議の様子



整備された圃場

【かみつが農業女子の活動支援】

令和 6(2024)年にメンバーが 17 名となり、それぞれが抱える悩みや課題の共有化を図り、東洋大学蜂巣ゼミ生と連携して、課題解決に取り組むこととしました。

お互いを知ろうという目的でそれぞれの生産現場を訪問し、リーフレットを作成しました。また、かみつが農業女子の活動をPRするために、日光市や栃木県庁でのマルシェに出店しました。

各自やってみたいことが明確化され、メンバー同士や、学生と一緒に活動の幅が広がりつつあります。



蜂巣ゼミ生と交流



マルシェへの出展

【「農ある暮らし」体験講座＆相談会を開催】

農村地域への移住・定住を考えている人や、日常生活に農業を取り入れたい人を対象に、「半農半X」や「農ある暮らし」を広めるためのイベントを開催しました。

このイベントでは、「農」ある暮らしアドバイザーである大関浩司氏(有限会社 大関種苗園)を講師に迎え、初心者向けの野菜作りや花の寄せ植え体験講座を行いました。また、「半農半X」や「農ある暮らし」に関する相談会も実施しました。

今後も、農業や農村に興味を持つ人を増やし、持続可能な農村地域を実現するため、様々なきっかけづくりに取り組んでいきます。



農ある暮らしアドバイザーによる講座



花の寄せ植え体験

【農村ボランティアの活用や交流イベントによる交流人口拡大】

鹿沼市の中山間地域で活動する「加蘇地区ふるさとづくり協議会」は、都市住民との交流を通じて地域を活性化させる取組を行っています。

マッチングサイト「TUNAGU」で募集した農業ボランティア協力のもと、昔ながらの手作業によるそばの収穫、乾燥、脱穀作業と、収穫したそばを使ったそば打ち体験イベントにより、参加者との交流を深めました。

今後も、耕作放棄地を整備した「カソトモの森パーク」を拠点に、都市と農村の交流活動を続けていきます。



「くるり棒」を使ったそばの脱穀作業



そば打ち体験イベント

【直売所向け情報発信研修会の開催】

農産物直売所での効果的な情報発信や農産物の安全性確保についての理解を深めるため、直売所運営者向けの研修会を開催しました。

研修では、(株)グリーンデイズのマーケット開発課長である及川拓人氏を講師に迎え、LINEやInstagramなどのSNS運用方法や、SNS投稿画像やPOP作成時に誰でも簡単に使えるツールについて講演いただきました。また、農薬の適正使用による農産物の安全性確保に対して、直売所が果たすべき役割などについて改めて確認しました。

今後も、農産物直売所が地域の交流拠点として活躍し、安全で安心な農産物を消費者に提供できるよう、直売所の機能強化と農薬の適正使用の啓発に取り組んでいきます。



研修会に参加した直売所運営者



(株)グリーンデイズ 及川氏による講演

【かみつが地域の「いもいも」の魅力発信】

上都賀地域では、さといも、さつまいも、加工用馬鈴薯の作付け拡大を目的に「上都賀地域「いも3兄弟」プロジェクト」を進めています。

県内有数の産地である「さといも」と「さつまいも」の魅力を広めるため、鹿沼市・日光市の飲食店や農産物直売所と協力して、いも類を使ったメニュー提供や販売フェアを開催しました。

また、上都賀地区農村生活研究グループ協議会の協力を得て、地元農家が教えるさといも・さつまいものレシピ集を作成し、新たな魅力を発信しました。

今後も生産者や実需者と連携し、上都賀地域の農産物の魅力を発信していきます。



かみつがいもいもフェア



さといも・さつまいもレシピ集

【上都賀地域の魅力満載「鹿沼・日光おでかけ map」で周遊と誘客を促進】

新たなランドマークとして注目される「スノーピーク鹿沼キャンプフィールド&スパ（鹿沼市）」の開業をきっかけに、上都賀地域へのさらなる誘客や消費拡大を目指して、「鹿沼・日光おでかけ map」を作成しました。

鹿沼市南摩地区を中心に、上都賀地域を訪れる人に鹿沼市・日光市の魅力を伝えるために、上都賀地域の「買う」「食べる」「見る」「やってみる」スポットをたくさん掲載しています。訪れる人がここでしか味わえない、美味しい食べ物や楽しい体験、うれしい発見を見つけて、日常を忘れるような楽しい時間を過ごしてもらうことを期待しています。

今後も、上都賀地域の魅力を発信し、鹿沼市・日光市への誘客や周遊を促進していきます。



鹿沼・日光おでかけ map

【中山間地域の交流拠点「花農場あわの」を活用した誘客促進】

鹿沼市栗野地区にある「花農場あわの」は、季節の花や木で彩られた庭園があり、自家栽培のハーブを使った料理を提供する農村レストランで、県内外から多くの人々が訪れています。

より多くの集客を目指して、初めて店舗を訪れる人でもスムーズに道案内ができるよう、華やかで見やすい看板を作成しました。また、イベント時に配布し来店を促すショップカードや、リピーターを増やすためのポイントカードも作成しました。これらのデザインは、レストランの全メンバーで検討を重ねて完成させました。

今後も、「花農場あわの」を中心に、中山間地域の交流拠点として自主的な活動を促し、誘客と地域の活性化に取り組んでいきます。



誘客を促す外看板



イベントでショップカード配布